

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西通り)

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人あすなろの会		
事業所名	グループホームあすなろ南陽		
所在地	山形県南陽市宮内2767-15		
自己評価作成日	令和2年12月27日	開設年月日	平成18年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

相手の立場に立ち、本人の思い・希望に添ったケアを心がけています。尊厳を大切に自立支援を心掛け、待つ姿勢を大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォー・ユー		
所在地	山形県山形市小白川町2丁目3番31号		
訪問調査日	令和3年1月27日	評価結果決定日	令和 3年 2月 15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は駅裏の住宅地に位置しており、日頃より地域との交流を大事にしています。あすなろの会理念とケア目標を掲げ、また職員が話し合って独自の年間目標「チームワークで困難を乗り越ろう」を定め、コロナ禍の中みんなで対策に努め、家族等とは玄関先の面会で利用者は顔を見ることができ安心してあります。比較的介護度が軽い方が多く、得意なこと(編み物、生け花、尺八)に励み、家事全般については男女関係なく協力して行っています。また行事を大切に笹巻作り、七夕、クリスマス、団子下げなど季節を感じられる工夫が随所にみられ、利用者が和気あいあいと暮らしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果はGHあすなる南陽 西通り

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「チームワークで困難を乗り越ろう」の南陽独自の理念を掲げ職員間で助け合いや話し合いを行っている。理念は事務所に掲示し実行している。朝のミーティングで各ユニットの連絡や日程の確認を行い目標を意識した実践が出来る様にしている。	法人理念とケア目標を掲げており、さらに職員で話し合い年間目標を定め、今年度は「チームワークで困難を乗り越ろう」を目標にしてコロナ禍の中、利用者と一緒に安心・安全な日常が過ごせるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の夏祭りや芋煮会の案内を出しイベントに参加し、利用者様と馴染みの友人・地域の行事に社会参加出来る様に交流している。また、事業所でミュージックケアを開催し近所の方も参加してご利用者様との交流している。今年度はコロナ感染症予防の為、地域の方との交流が行えなかった。	例年は夏祭り、芋煮会、高校生の訪問など様々な交流が行われていたが、今年度は自粛を余儀なくされている。近所の方が季節の花を届けてくれたり、散歩であいさつを交わしたりしているが、認知症カフェやミュージックケアでまた交流できる日を待っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進委員の方、近所の方のお茶会やオレンジカフェ等で認知症について理解について話をしている。勉強会などは出来ていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員の方・地域民生委員・地区長・地域の代表・家族会の会長をお招きし、2か月に1度開催し、意見やアドバイスをお聞きしている。意見に対しては、できるだけお答えられる様に対応してある。今年度はコロナ感染症予防の為、書面での対応となりました。その都度、ご意見を頂けるように対応している。	運営推進会議は2ヶ月ごとに実施し、ユニットごとの現状や身体拘束についての報告を行い意見や質問を受けて双方向的な会議となっているが、今年度はコロナ禍により文書でのやり取りで行われ、結果については職員、家族等にも共有している。地区長が毎月市報を届けてくれた時に地域の情報など聞いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉課・包括支援に分からない事柄や困難な事例の対策打破を相談している。事業所の課題等に対して相談したりいけんを頂ける関係が出来ている。	市とは良好な関係で相談やアドバイスを受け、事業所の現状を理解してもらっている。生活保護の入居者に変化が生じた時は相談に応じてもらい対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	自由とリスクを考えながら、見守り付添を大事にし安易に拘束しない様に職員皆で協力している。玄関には鍵をかけず過ごしている。また、やむを得ずベット柵や足元センサーを使用する場合はユニットごとで相談し、家族に同意を取っている。身体拘束については勉強会をしている。身体拘束が必要な時は、ご家族に丁寧に状況を説明し、ご理解・ご了承して頂いてから同意書を頂いている。毎月、個人カンファレンスの時に、必要か話し合っている。また、身体拘束について今年度は内部研修をしている。	グループの管理者会議で身体拘束適正化のための研修を行い、その後事業所で共有して学んでいる。何が身体拘束にあたるか、看護師を講師に迎え身体拘束についての研修会を実施している。支援により足元センサーを外した方もおり、利用者主体の安全な生活に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あすなるの会、内部研修に参加し虐待について勉強を行っている。また、ミーティング等でも話し合いの場を設けている。常に職員間で意識し気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学ぶ場を設けている。必要であれば、身元引受人・主治医・行政とも話し合い情報提供を出来る様にしておく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	やむを得ず、長期入院になった場合は十分な説明をしている。利用者様・ご家族が不安にならないよう、スムーズに移動できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し意見や要望を出して頂いている。運営推進会議にも家族に参加してもらい意見交換しています。今年度は、コロナ感染症予防の為開催できていない。	例年は家族会開催時・運営推進会議出席時また面会や電話で意見や要望を聞いているが今回はコロナ禍により書面で伺い、結果は家族にも報告している。納得いかない家族には現状を細かく説明し理解を得ている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで各会議の報告と職員の意見を聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就労状況を管理者を通し毎月管理者会議や適宜本部に報告している。職員の家庭環境や事情を考慮して勤務体制や希望休等の相談に応じ安心して働けるようにしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の交換実習やあすなる内部研修に参加しスキルアップに努めている。今年度は、コロナ感染症予防の為開催できていない。コロナ感染症予防の為、交換実習はできなかった。	今年度はコロナ禍のため外部研修へは出席できていないが、内部研修としてミーティング時に都度職員の疑問に答え、またベテラン職員が技術面の指導を行うなど質向上に努めている。更に利用者や家族等に対する言葉遣いや接遇などの研修を深めたいとしている。	管理者が変わり、職員不足もあると思われるが時間を見つけて研修の機会を設け更なる質向上に期待したい。
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	オレンジカフェ意見交換会に参加し、他の事業所の状況など意見を聞いたりし交流している。	オレンジカフェを開催している市内の事業所との意見交換会に出席し交流を図っている。また他事業所の管理者と電話で情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ本人の思いを組み取り自宅と同じように生活ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に家族と話し合い、家族の思いを取り入れる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、どのような支援を求めているかを見極め支援に努める。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事はできるだけ自分でして頂いて、困っている時は支援するようにしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の負担を減らして、通院など多く関わり、利用者様の状況を伝える様にしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、コロナ感染症予防の為、難しい。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話す方と一緒に座って頂き会話をして頂く。どうしても、孤立する時は職員がフォローする。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退院の時は家族からの連絡をいつでも受けられるようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅と同じような居室作りをしている。	入居前のアセスメント(情報収集)や家族等の意向を聞き、本人がどのように暮らしたいか思いを聞いている。今までの生活歴や習慣から得意なことに積極的に取り組んでもらい、利用者同士が刺激を受けてやりたいと参加する方もおり、生きがいに繋がっている。また職員が知恵をもらう場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りが難しい時は、家族に協力してもらい情報を集める様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・バイタル表など毎月の記録を取り把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、個人カンファレンスを行いその人の現在の様子やサービスなど話し合っている。	毎月担当者とケアマネジャー、計画作成者がカンファレンス(検討会)を行い、情報を共有し話し合っている。継続できる事、もう少し頑張れば出来るようになる事など利用者の自信に繋がるようなプラン作りで支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル表・排泄記録を取り現状の把握に努めている。個人記録には、会話・行動など記録し職員間で情報共有できるように努めている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや買い物・散歩を通じ地域の交流出来る様にしている。今年は、コロナ感染予防の為、地域との交流が出来ていない。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を優先し、かかりつけ医を受診している。必要な情報は受診報告書に記入し受診の際持参したり、口頭や電話でも連絡している。協力医の往診が月2回行われている。定期受診などは、なるべくご家族が同行できるようにしている。薬の調整が必要な時や調整中の方は職員が同行している。	希望する医療機関をかかりつけ医にしており、往診できない所は受診報告書(情報提供)持参で家族の協力を得て受診し、遠方の方や必要に応じて事業所でも通院介助している。往診時には訪問看護師が立ち会って医師と連携を図り、家族等とも受診結果を共有して健康管理に努めている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が訪問時、状況報告や対応について相談や指示を仰いでいる。往診時も看護師が付添、医師への相談や指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の時は、面会や電話等で状況把握に努めている。急変時の時は主治医に連絡をし指示を仰いだり、必要であれば紹介状を書いて頂き専門医を受診している。退院時は、カンファレンスに参加し情報共有に努めている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、施設の現状を説明を行い意向を聞いている。看取りについては、体勢が整っていないため現在は難しい。看取りは現在難しい。現状を家族に入所時説明し、理解して頂いている。	入居時に重度化した場合における事業所の方針について、看取りは行わない事、嚥下力が低下したり入浴が困難になった時には他施設への移行を案内する事を説明し理解を得て同意書を得ている。状態変化に応じて話し合いの場を設け次に向けての方針を共有している。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習を受け、急変時の対応に備えている。施設看護師に相談し、個々の対応法も勉強している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル・避難マニュアルを作成し定期的に避難訓練をしている。今年度は、防火訓練を実施した。訓練マニュアルの見直しや利用者が避難する時のペンライトやヘッドライトの点検をした。	夜間を想定したボイラー室からの火災時避難訓練や2階を出火場所にした訓練を実施している。夜間想定では各ユニット夜勤者1名にして総合訓練を行い、終了後反省点を活かして同日に再度同じ訓練を職員を変えて実施している。いざという時の近隣からの協力は運営推進会議等で要請して承諾も得ている。	訓練時でも利用者の名前・連絡先などを記載したプレートを首に掛けて取り組んでおり、災害時に非常時用持ち出し品(服薬等の利用者情報も含む)もすぐ携行できるような形で準備されることに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にしない不快な言葉使いや態度をすることがない様に気を付け個々に合わせた声掛け対応している。常に職員同士気を付けている。	利用者の行動には生活歴や職歴などが深く関わっていることを理解し、職員間で情報を共有しながらその方に合わせた対応を心掛けている。先輩職員を良い手本にしてケアにあたり、気になる言動がみられた時は職員を交代して自身を振り返ってもらい、次に繋がるよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも話せる関係を築き心がけ、本人の思いや希望に添ったケアをしている。自己決定ができる様、できるだけ待つ姿勢を大切にしている			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性を尊重し生活習慣に添ったケアを行えるようにしている。希望や思いを組み取りその方らしい生活ができる様、常に業務の見直しを行っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や、その日の気分に合わせて本人が着たい服を選択できるように支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の身体状況や嗜好を考慮した食事提供。旬の食材を中心に一緒に買い物に行ったりしている。献立は、利用者さんに聞いたり一緒に献立を立てたりしている。また、一緒に調理をしたりしている。	今までの献立を参考に旬の物や昔から慣れ親しんだ食材を使って利用者と一緒に調理している。チラシを見て食べたい物があった時はその要望に応え、好き嫌いや病歴、状態に合わせて代替品や量、形態に配慮している。また百歳を迎えた方の祝い膳や寿司など行事に合わせて提供し喜ばれている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は本人の状態・嚥下状況に応じ提供をしている。水分補給のたび声掛けをし促している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、その方に応じて声掛けや一部介助している。一日一回義歯洗浄をしている。利用者によっては月数回の訪問歯科を行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者に合わせた排泄介助を行い、その都度声掛けや介助を行い、トイレで排泄する事が継続できている。	利用者の意思を大切に個別支援に取り組み「自分の時間で行っていいですよ」と声掛けしている。夜不安だったり、面倒と思っていた方も声掛けのタイミングで改善した方もおり、排泄の確認と記録で排便コントロールや水分制限に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人に合わせた、下剤の調整を行い水分摂取を心掛け食事メニューにも便通が良くなるような食材を取り入れる。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回、本人の体調等に合せゆったりと入浴ができるよう支援している。本人の好む湯温にしている。	希望に合わせていつでも入浴できるようにしており、毎回湯を変えて入浴剤を好む方や同性介助の希望にも応えている。入浴前のバイタルチェックで体調を見ながら転倒に細心の注意を払って介助し、1:1の会話では普段聞けない話も出て利用者を知る貴重な時間となっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休んだり、ホールでテレビを観たり思い思いに生活されている。夜間眠れない方には傾聴したり優しく声掛けをすることを心掛けている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基にくすりの仕分けを行い、薬の変更時には申し送りを行い情報共有に努めている。主治医に相談報告をし助言をして頂いている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・仕事や趣味等・好きな事や得意な事を継続してできるよう支援している。それぞれに出来る事は役割を持って過ごしている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事やドライブを企画している。また、買い出しの時に一緒に行ったりしている。今年度はコロナ感染症予防の為、外出支援はできていない。	今年はコロナ禍で例年のような外出行事はできなかったが、天気の良い日には積極的にドライブに出かけ車窓からの眺めを満喫している。また玄関先で両ユニット一緒の茶会をして外気に触れながら団欒を楽しみ、ホールで工夫を凝らしたレクリエーション活動をして外出できないストレスを発散している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、トラブルが多数あり現金の持ち込みはご遠慮して頂いている。どうしても、という方には事務室でお預かりし、必要な時にお渡ししている。また、使用さいには個人出納長を作成し、本人と確認しながら付けている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が掛けたい時、自由に電話が出来る様に支援している。手紙も自由にやり取りができる様に支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の壁を飾ったり、季節感を感じる飾りを利用者様と作ったり飾ったりしている。共用の空間は、換気が適切にされ、常に清潔で動線は安全であることを常に心がけている。	両ユニットがホールでつながり見通しも良く連携して見守りできる造りになっている。各ユニットそれぞれに趣きがあり、ホールに集まって編み物や縫い物など趣味に勤しんだり、洗濯干しや食事の下準備を手伝ったりと活動的に過ごしている。掃除や換気、生活動線の確保など環境整備に努め、安心・安全な共用空間づくりをしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が過ごせるよう、テーブルの位置や場所を工夫している。居室で、テレビを観たり、好きな事が行え自分の時間が持てる様に支援している。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具などを置いたり使い易い様に配置し、落ち着いて居心地良く過ごして頂ける様工夫している。また、家族に写真や絵など飾って頂いたり協力して頂いている。プライバシーを大切に安心して、その人らしく過ごせる様に工夫している。	ベッド・クローゼット・エアコンを備え、貸出しの防火寝具を使ってもらい、必要な方にはナースコールや呼び出しの鈴、足元センサーの使用で安心な体制を整えている。入り口には名札と共に避難時対応（自立・手引き・杖等）を表示して災害時に備え、清掃時や空室時のこまめな換気や室温にも配慮している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLを確認・把握し、自立支援を心掛け事故の無いよう安心・安全な生活を送れるように支援する。			